



NEWS

2014 No.280

7

全国整備工場の皆様へNGP 組合員 200 拠点がお届けするお役立ち情報

月号

スキャンツールの普及・定着が 診断料有償化への道拓く

——大阪府自動車整備振興会のアンケート調査を基に考察する

7月1日より、スキャンツールの補助金公募のための申請受付が始まりました。

いわゆる、「省エネルギー型ロジスティクス等推進事業費補助金（スキャンツールを活用した整備の高度化等推進事業）」です。予算額、補助率、補助金限度額は前年度と同様ですが、今年度分は事業所が異なれば1社2台まで申請でき、前年度に受給された事業者においても別の拠点であれば申請が可能です。そこには、より幅広く普及させたいという行政サイドの意志が強く感じられます。

さて、「スキャンツールを活用した診断料金の調査」を大阪府自動車整備振興会（大整備）がほぼ1年前に行っています。有効回答数は517（回収率12.1%）ですが、これはスキャンツールに限定されたアンケート調査であり、大変興味深い内容となっています。

まず回答先ですが、専門工場448社、ディーラー27社、自家工場42社となっており、専門工場が主体（86.7%）となっています。

保有状況は、「自社保有」が51.8%、「借用」の23%を合わせ74.8%、全体の4分の3が活用しているものの、「外注」の6%と、「保有していない」19.5%が存在します。業態別では、専門工場52%、ディーラー92.6%、自家工場23.8%となっています。

ディーラーは普及率こそ高いものの、診断料を設定していると答えたのは27社の内、僅か7社。大阪においてはディーラーの4社に1社しか診断料を請求できていない事実が浮かび上がりました。これでは専門工場としても、診断料を請求することに対して躊躇せざるを得ないのでしょうか。

専門工場における診断料有償化の現状は、車検・定期点検時で約10%、コンピュータシステム診断時約20%に対し、一般整備時においては約40%が請求しています。一般

整備の入庫への対応においては請求書に乗せやすいということでしょう。

一方、請求料金においては業者の場合、車検時は1,000～6,000円（平均2,667円）、定期点検2,000～6,000円（同3,096円）、一般整備500～15,000円（同3,478円）、コンピュータ診断時1,000～7,000円（同3,618円）と、最小値と最大値でかなりの開きがあります。

対してディーラーは、車検・点検時は一律6,000円、一般整備2,520～10,000円（同4,891円）、コンピュータ診断時1,890～5,000円（同3,445円）に納まっています。

さらに、業者の料金設定についての考えは次のような回答になっています。「一定額を決めている」（57.5%）が最も多く、次いで「診断時間を基に算出」（19.8%）、「日整連の点数表を参照」（14.5%）、「購入価格から算出」（7.2%）です。

さて、大整備に寄せられた111件の意見の中から、35件あった「請求していない」

理由の一部を紹介してみましょう。「無料で診断して入庫促進するツールとしている」、「診断機を工具、設備と思っており診断料は取っていない」、「他社の様子を見ている」、「特に不調がない場合は理解してもらえない」などとなっています。

ですが、考えてみて下さい。車両の電子化は質量ともに進化し続けています。それも急ピッチです。今後とも、交換部品や消耗品のニーズが減少することは避けられません。従来型の経営スタイルでは、売上の先細りは間違いありません。

これまで、クルマの安全・安心を守り維持管理するという、整備事業のビジネスモデルを人に置き換え、医療分野と比較されたことも少なくありません。今日、予防医学が当たり前となった彼の業界はいかがでしょうか。人間ドックに代表される検診、診断の類が、無償サービスで行われていますでしょうか。

スキャンツールが本格普及する今こそ、整備業界においても診断料の有償化に、真剣に立ち向かうべきでしょう。



大整備が今年5月に会員工場へ配布した「スキャンツールの活用ガイド」

機工協、2013年のリフトおよび整備機器事故の集計結果を発表

総事故件数が過去最多を更新 適切な点検・使用で人身・物損事故防止を

日本自動車機械工具協会（機工協、中谷良平会長）がこのほど、2013年1～12月に発生した、リフトおよび整備機器に関する事故の集計結果を発表しました。

リフト事故は、昨年と同数の25件発生しており、2008年の30件、2005年の26件に次ぐ件数です。整備機器の事故は22件と、昨年より4件増加し、総事故件数は47件を記録しました。

リフト事故原因の内訳では、取り扱い不良が19件と非常に多く、昨年の9件から急増しました。この数字は、1995年より1年ごとに統計を開始して以来最多です。そのほか、点検不履行の7件、その他1件と続いています。また、2013年中の事故25件のうち、24件が保守契約を締結していませんでした。

1995年から2013年までのリフト事故原因でも、取り扱い不良が185件（47%）で最も多く、次いで点検不履行の96件

（25%）、取り扱い不良と点検不履行の両方を兼ねているケースが62件（16%）の順となっています。

さらに原因を詳しく見ると、車両を不安定な状態でリフトアップしたことが原因で、全治1ヵ月以上の怪我を負った人身事故が2件発生しているほか、リフトから車両が落下する物損事故が多くなっています。なお落下事故は、リフトアップポイントのセッティング不良が主な事故原因となっています。

一方、整備機器の事故では、門型洗車機の事故が7件と、昨年に続いて最も多いものになりました。門型洗車機の事故発生状況としては、①トップブラシのセンサー不良によるルーフの損傷、②経年劣化によるサイドブラシの折損でルーフを損傷、③スポンジブラシの不良によりワイパーブレードを損傷、④トップブラシの車種選択を間違えたことによるルーフの損傷、⑤エア配管の接続部が破損したことによるエア不足でストップバーが降

下してルーフを損傷、などが報告されています。

次に多かったのは、タイヤチェンジャーによる事故で、5件発生しています。このほか、エンジンタイプのアコンプレッサーでは、燃料フィルターの整備不良でガソリンが漏れたことが原因で引火し、火災が発生しています。

機工協では、2008年に「リフト点検資格者認定制度」を創設しており、2014年4月時点で868人が認定されています。2013年度の定期点検の実績は、6,033事業所（前年比7事業所増）、2万162台（同3,418台増）で、年初目標の2万台を超えました。

2014年度の定期点検目標台数は2万5,000台。加えて年度内にビデオを制作し、事故防止のため整備工場や修理工場などに注意を喚起する計画です。

「第5回自動車リサイクル部品ロジスティック研究会」を開催

バンパー用リターナブル梱包材の利用拡大で 物流コスト削減、エンドユーザーへ利益還元を



（株）NGP（長谷川利彦社長）、（株）ビッグウェーブ（服部厚司社長）、（株）JARA（北島宗尚社長）、ARN（岡田誉伯代表）、（株）SSG（古田欽一社長）、（株）ブロードリーフ（大山堅司社長）および大手運送会社による「第5回自動車リサイクル部品ロジスティック研究会」が、6月6日にJARA本社（東京都中央区）で開催されました。

第5回となる今回は、前回の研究会で決定されたことを受け、各社が撮影したトヨタ・

エスティマ（30・40系）フロントバンパー梱包作業の動画を検証しました。各社の段ボールによる通常梱包に加え、NGPのリターナブル梱包材を用いた梱包作業も放映・検証されましたが、作業終了まで1分50秒と作業時間が最も短く、その方法も非常に簡便で、しかも低コストであることが高く評価されました。

（株）NGPの玉木基裕専務は「リターナブル梱包材は、中長期的にはコストメリットが

大きいものの、導入コストが高いことが普及阻害の要因となっています。ですが同研究会で水平展開すればスケールメリットが生まれ、それが取引先の整備・修理工場、ひいては修理代をわずかでも安く抑えたいカーオーナーへの利益還元につながっていくでしょう」と、自動車保険等級制度改定で自費修理が増大し、リサイクルパーツ取扱の好機となっている現状を踏まえながら、リターナブル梱包材の利用拡大を参加各社に訴えています。

NGP 今月のCO₂削減量



リサイクル部品利用に伴う削減効果

※NGPをはじめとしたリサイクル部品販売事業12団体は、グリーンポイントクラブを作り、リユース部品、リビルト部品を利用することで達成できたCO₂削減量を利用者の皆様にお知らせしています。ご協力ありがとうございます。

NGP 平成26年5月：**6,112t** NGP 1月からの累計：**33,604t** (全12団体 1月からの累計 **60,175t**)



リターナブル梱包材利用に伴う削減効果

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を試算しました。

NGP 平成26年5月：**24.1t** NGP 1月からの累計：**114.1t**



リサイクル部品活用でロコミ拡大 今後は正しい知識の 啓発も必要に



千歳自動車钣金工業(株)(東京都江東区)



馬場社長(中央)と同社スタッフ

NGP協同組合は2010年10月1日、エコな整備・修理を希望するカーオーナーに優良な整備事業者を紹介するWebサイト「NGPエコひろば」(<http://www.eco-hiroba.net/>)を開設しました。以来、多くの整備・修理工場にご利用いただいております。現在の登録工場数は約4千件に達しております。

NGPニュースでは今月号より隔月で、「NGPエコひろば登録工場の訪問コーナー」を設け、リサイクル部品の活用方法などを中心に、整備・修理工場の皆様をご紹介して参ります。

そのトップバッターとして、東京都東部の住宅街に工場を構え、1970年の創業間もない頃より、リサイクル部品を活用する車体修理や機能部品のメンテナンスに積極的に取り組まれております。千歳自動車钣金工業の馬場茂社長を訪問し、お話を伺いました。

「当社では、創業者である先代の社長が、NGPグループが発足する以前から活用していました」と、同社におけるリサイクル部品活用の歴史は長いといいます。また、「NGPリサイクル部品の品質は安定しています。しかもNGPダイレクトシステムを導入してからは、オンラインネットワークで部品の検索・発注がしやすくなったため、以前より積極的にカーオーナーへリサイクル部品活用の安価な修理をお勧めするようになってきました。NGPエコひろばにも、同サイトがオープンしてすぐに登録を済ませました」。

馬場社長は「钣金塗装工場は地域密着型のビジネスで、よい評判とお客様の数はロコミでしか広がっていきません。リサイクル部品を活用し安価な修理・整備を提案することは、お客様との接点を作るうえで大いに役立つのです」と、その大きな理由のひとつとして挙げています。

例えば、お子様の送迎を中心に町乗りメインでクルマを使う奥様が、ちょっと近所で運転をミスしフロント周りを損傷してしまいました。それをディーラーで見積ってもらおうと「10万円以上必要です」と言われましたが、そのまま修理を依頼すれば、家計に大きな打撃を受けてしまいます。

そんな時に、お客様からご相談を頂き、リサイクル部品を活用すれば、「私どもの工場なら半額で修理できます。しかも今ならいい部品がありますよ」と、安価な修理をお客様にご提案・ご提供できます。

そうすれば、お客様の修理費用が安く済み、財布にやさしく、クルマにも安心して再び乗れるようになりますので、大変喜んでいただけます。

工場サイドでも、新品部品と同等以上の部品利益が確保でき、またドアなどのガラス等込みでAssy供給される部品ならば工賃も工夫できます。

「このような提案は、新品部品交換で利益をあげられる新車ディーラーでは、なかなか積極的に展開することができません。またリサイクル部品の提案には、納期や品質、保証面の説明に加え、納車後に不具合が発生した場合の対応方法などで、お客様への説明ノウハウと経験が必要になります。当社は、リサイクル部品を有効活用できれば、ディーラーを含む競合他社との大きな差別化要因になると考えています」と、馬場社長はリサイクル部品のメリットを具体的に話されました。

しかしながら、昨年秋から本格始動した自動車保険等級制度改定の影響は大きく、「その直前は駆け込み需要がありましたが、改定後は入庫台数が急激に減少しています」。一方、保険を使わない自費修理の割合が高まり、それに伴いリサイクル部品へのニーズも確実に増えているため、「オンライン部品検索と電話での問い合わせを併用し、部品確保に努めています」。

また同社では、新品部品を使用した見積りでは車両時価額を超えてしまう車対車の対物事故、同じく車両保険価額をオーバーする単独事故など、通常では経済的全損扱いになってしまう事故の低年式車が入庫するケースも増えています。このような場合も「リサイクル部品を活用すれば、保険金で修理費用を全額まかなえることが多いため、積極的にリサイクル部品での修理を提案しています。その結果、入庫いただいたカーオーナー様には、大変喜んでいただき、リピート率の拡大にも繋がっています」と話されています。

最近では、钣金塗装業界全体の周辺変化が

著しく、カーオーナー側からリサイクル部品を要望されることが多くなっています。リサイクル部品の認知度拡大は、NGPエコひろばテレビCM等の効果も影響していると思います」と馬場社長は言います。

その中で、自分でリサイクル部品を購入し、部品持ち込みでの修理を依頼されるケースも増加しています。しかし、その部品がユーザー車両の型式・年式・グレードに適合していないことも多いようです。結果、同社で適合部品を取り直し、新品部品で修理するより総支払額が増えてしまったという事例も発生しています。

さらにはボンネットを開けたことすらない、クルマのことを全く知らないカーオーナーも増えています。「今後は単にリサイクル部品での修理を提案するだけではなく、リサイクル部品と、クルマそのものの正しいメンテナンス知識をわかりやすく伝え、入庫するカーオーナーへの説明レベルを高めていく努力も必要になるでしょう」と話す馬場社長の胸中では、リサイクル部品活用を同社の継続的な成長のカギとするビジョンが、すでに明確に描かれているようです。



「クルマ直しの、新しい選択。」のほりて NGP リサイクル部品の活用・取り扱いをアピール

第25回基礎研修会開催

苦難に満ちた4日間の末、受講生全員が心を“揃える”

NGP協同組合の第25回基礎研修会が6月25～28日、BumB（ぶんぶ）東京スポーツ文化館（東京都江東区）で開催されました。北は北海道から南は鹿児島まで、下は18歳から上は60歳まで、NGP組合員各社から総勢100名の新入社員が集まりました。

この研修会が始まるのは、開会式からではありません。会場に到着した時から受講生は服装や言葉遣い、挨拶の仕方などを厳しくチェックされ、社会人として求められる礼儀作法を徹底的に叩き込まれます。

その後受講生は7つの班に分かれ、強烈な夏の日差しが照り付けるグラウンドで、ラジオ体操・整列・挨拶からなる団体訓練に入ります。ここではあらゆるかけ声を、のどが潰れることも厭わず全力で出し切り、かつスピードや整列位置、タイミングを、各班の全員が完璧に“揃える”ことを求められます。

さらに夜からの暗記試験では、NGP三大信条やお客様第一10ヶ条に加え、同じ班のメンバー全員の氏名などを一文字も間違えずに斉唱しなければなりません。それが達成されるまでは、例え何時間、何日経過しても、何百回試験が繰り返されようと、決して「合格」の2文字は与えられません。連帯責任の「NGPの絆」を、全員が体得するまで

続けられます。今回は特に、暗記試験のクリアに時間を要する班が多く、講師・受講生とも連日徹夜で試験に臨みました。そしてそれは、4日目の修了式直前まで続きました。

「全員が不合格のまま、今回の基礎研修会が終わってしまうのでは…」。不安に満ちた空気が、修了式会場に漂います。しかし最後は、受講生全員が一致団結して試験に臨み、ようやく合格することができました。

修了式で挨拶した長谷川利彦理事長は、「皆さんが心をひとつにして研修を無事終了されましたが、会社に戻られたら、皆さんが唱和しましたNGP三大信条、お客様第一10ヶ条などを社内で実践して下さい。そしてこれからは、NGPマンとして先輩方と力を合わせ、NGPブランドを作り上げて下さい」と、今後の心構えを受講生に語られました。

(有)しのぶやの松本恵里さんは「何かを

成し遂げるには、個々の能力以前に全員の気持ちをひとつにしなければならず、それができなければ組織としての意味がない、ということを実感しました。この4日間で得たことを無駄にせず、NGPグループの一員であることに自信と責任を持ちながら、今後の業務に活かしていきます」と、気持ちをひとつにするの大切さを体得していました。

そして、「自分が生産する商品の一つひとつはNGPブランドを売ることにつながるという自覚を持ち、どのお客様に購入していただいても恥ずかしくない商品を生産していきます」((株)ナプロアース・菊池渉さん)、「横や上下のつながりを大事にし、相談・連絡を怠りません」((株)桃太郎部品・小川良夫さん)と、これからの各社での業務に向けた決意を表明しています。



炎天下で団体訓練に臨み、“揃える”ことの重要性を体得する受講生



気の緩みを生じさせた班を、岩井悟朗・教育委員長が厳しく指導



修了式で受講生を激励する長谷川利彦理事長

(株)オートパーツ伊地知、10団体の優良組合表彰を受賞

5月28日、鹿児島県中小企業団体中央会通常総会で、鹿児島県ELV協同組合の理事長を務めるNGP組合員、(株)オートパーツ伊地知の伊地知志郎社長が、10団体の優良組合表彰を受賞しました。

伊地知社長は「組合活動を始めてから早10年になりますが、これからも自動車リサイクル業者として、責任を持って活動して参ります」と、今後の意気込みを述べています。



組合員情報変更

支部	会社名	変更内容	変更後	変更日
北関東	ユーパーツ水戸店	移転	〒310-0803 茨城県水戸市城南2-9-32 第1プリンスビル5階 (TEL・FAXに変更はありません)	26年6月19日

訃報

6月13日、(有)鹿児島パーツ(鹿児島県南九州市)西哲郎代表取締役のご尊父、西貴夫(にしきさねお)様のご逝去されました。享年95歳。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
http://www.ngp.gr.jp/

株式会社NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201
http://www.ngp.co.jp/